

車いすで見学 姫路城マップ

車いすの利用者が姫路城(姫路市)を安全に見学するのに役立つマップを、地元の姫路独協大の学生らが作った。車いすの目線から城周辺の坂の傾斜や段差を確認し、介助者の助けとなる上り下りのポイントなどを示した。学生たちは「車いすでも気兼ねなく観光してほしい」と呼びかけている。

利用者目線で 傾斜・段差を確認

姫路独協大の学生ら

姫路城管理事務所によると、姫路城は坂と石段が多く、車いす利用者の単独の見学はできない。3人以上の介助者が必要で、車いすのレンタルはないという。マップは、同大医療保健学部作業療法学科などの学生が、市内で地域おこしをするNPO法人「コムサロ」などと協力し、約20人で昨年4月から約1年をかけて作成した。

学生らは作成にあたり、市内を中心とする車いす利用者を対象に、姫路城を観光する場合に不安に思うことなどを尋ねたアンケートを実施し、約100人から回答を得た。その上で、実際に車いすに乗って城周辺をめぐる、坂の傾斜や段差、溝をはじめ、坂のどの部分を通れば車いすでも上り下りしやすいかなどをチェックした。

こうして出来た「移動編」と名付けたマップには、「車いすを」まっすぐ押しても溝に寄ってしまう「車輪がはまりやすい溝がある」などと危険なポイントを記したほか、「天守閣側へ寄るか中央を通ることと段を避けて通ると上り

やすい」などと上り下りのポイントも示した。城内のトイレについても、入り口の前の段差や手すりの有無などを詳しく紹介している。車いすに乗って城を美しく撮影できる場所などを示した「観光編」のマップも併せて作った。2種類のマップは、近く市観光案内所などで配布する予定。作成グループのリーダーで3年生の大丸愛加さん(21)は、父親が車いすでの生活になり、引きこもりがちになった経験があるといい、「だれもが姫路城を楽しめるようになればいいですね」と話した。学生を指導した村井弘育教授は「車いす利用者の目線で考えた着眼がよかった。車いすでも城の観光ができることを広く知ってもらえたら」と話している。(直井政夫)

車いすに乗って城周辺の危険な場所を確認する姫路独協大の学生。姫路市本町



車いす利用者のために作成された姫路城マップ

